



埼玉支部報 第17号

目次

第11回講演「火山噴火と安全登山対策」	1	忘年山行報告(清掃登山)	6
自然保護委員会 さいたま緑の森博物館	2	新年支部懇談会報告・埼玉100山加治丘陵	7
第3回 大高取山自然観察会	2	第12回講演「滑落・転倒・道迷いを起こさないために！」	8
四季の山 秋山 浅草岳	3	第5回シンポジウム	9
平成27年度 支部長会議報告	4	会員異動・今後の事業予定	10
日本山岳会創立110周年記念式典・祝賀晩餐会	5		

第11回安全登山講演会「火山噴火と安全登山対策」報告

安全登山委員会の企画による第11回安全登山講演会「火山噴火と安全登山対策」が平成27年10月25日(日)、13:30~16:00、大宮駅東口の仲町川鍋ビル8階で開催された。講師は元立正大学地球環境科学部教授・日本山岳会科学委員会委員長の福岡孝昭氏である。講演会には日本山岳会員及び支部会友(9名)、埼玉県山岳連盟や埼玉県勤労者山岳連盟などの山岳会員及び一般登山者(9名)を含め総計18名が参加した。開催日程が行楽の秋真っ盛りのためか、参加者が予定を遥かに下回り、日程等の開催時期に再考の余地を残すものであった。

昨年(平成26年9月27日)の御嶽山の噴火は火山の噴火現象としては極めて規模の小さいものであった

が、登山事故としては大きなものとなった。

また、初めに、活火山に登山するにあたり、噴火等火山活動との関係による事故を減らすにはどうしたらよいかを考えたいと講演に対する方針を述べられた。講演内容は、①火山と非火山、②火山は地球のどこにあるのか、③マグマはどのようにして生じるのか、④火山噴火とは、⑤マグマの組成と噴火現象の違い、⑥噴火の予知、⑦活火山登山の安全対策、の項目で説明があった。

「活火山登山の安全対策」では、①登山届の提出、②ヘルメット、③長袖・長ズボン、④手袋の着用、⑤ヘッドランプの携行、⑥噴石・火山灰からの防御、⑦岩陰の避難、⑧山小屋⑨火山ガスの検出と地形の観察、⑩火山ガスの検出と地形の観察、⑩登山コース上の山小屋・シェルター・避難場所の確認、



講師の福岡孝昭先生



後援会場

⑪二次災害(泥流・スラッシュ雪崩等)への警戒、⑫気象庁ホームページ。

「緊急情報の伝達」では、①噴火情報を登山者に情報提供、②サイレン、③登録制メール、④山小屋(防災行政無線)から緊急速報メール、⑤電波通信状況の改善を検討中、⑥携帯のスイッチを常時「ON」にしておく、予備電池を携行する習慣の必要性、など安全登山対策に関する提案があった。

講演後のアンケート調査では、「全体的に分りやすく、ほぼ理解できた。」また、「足りない知識を補うことができた。」などが大多数で、講演内容は極めて好評であった。 安全登山委員会 松本敏夫 記)

さいたま緑の森博物館

2015 年 10 月 25 日に、森林サポータクラブ 14 名、JAC 埼玉支部高嶋・吉田・村越・朝日 4 名の計 18 名、さいたま県森林サポータクラブとのコラボレーションで実施しました。

開会式ー8 時 15 分開会挨拶、ラジオ体操、ミーティングの後、チェンソー班と大鎌班に分かれ、大鎌・ヘルメット装備し現場に向かう。

現場ー8 時 45 分今回の下草刈りは、M 地区 0.5ha
○作業内容ー昨年植林されて 2 年生クヌギ植林地の大鎌による下草刈このクヌギは一昨年地元の小学生がドングリを自宅に持ち帰り鉢に植え、昨年 M 地区に小学生が植林したものである。今回の下草刈りは、80 センチ～1 メートル位の坪刈とし、幼木の根元回りに小笹がはびこり、慎重に刈り取った。

今迄は葛が多かったが葛は無く、普段よりは作業が捗った。朝の集合地に戻り大鎌の手入れを終え閉会式 11 時 30 分。

○和やかに参加者一同で昼食、食後、高嶋委員長が用意した解説版と地図の資料で、狭山丘陵を取り巻く地形形成を解説し丘陵の特異性が理解され、森林サポータクラブの方々から感謝された。

○13 時八幡神社境内に移り、森林サポータクラブのさつま芋畑の収穫祭に参加、茎を引っ張るとま

さに芋ずる式に紅東のさつま芋の収穫が進んだ。

○その後、自然観察会に移り、高嶋委員の植生解説のもと、自然観察会担当の吉田委員が用意した狭山湖外周コースを進み、分岐から反対に六道山方向に進み、その途中から森の博物館への道順を観察し、スケジールを 14 時 45 分終えた。

第 3 回大高取山自然観察会回顧！

11 月 29 日 埼玉支部主催、越生町教育委員会後援の「大高取山自然観察会」は好天の下、多くの参加者を迎え特異な自然環境と深い歴史に触れた忘れたい一日でありました。今回で 3 回目の観察会の特徴は 8 班体制(地学 1、植物 3、歴史 2 班)と指揮班(朝日実行委員、古川事務局長)並びに医療班(金子医師、宮川助手)を設けたことでした。晩秋の陽の短さを危惧しての選択でした。結果、ドンピシャリ予定どおりで、終了できました。最後尾の指揮班からの的確な指示によるものでした。

振り返って、2015 年 3 月から教育委員会と継続折衝の後 5 月 29 日後援ならびに、教育委員会の招聘依頼を松本支部長より提出、6 月 10 日に後援承認(越生町教育委員会の名義使用)11 月 29 日実施、翌 30 日「名義使用実績報告書」を以下の書面にて教育委員会に提出(報告内容:参加人数 49 名、成果:地学、植物、文化歴史の各班に分かれ、大高取山クリッペや暖地性植物、絶滅危惧種、中世からの由緒ある寺社の由来などを学び、越生町が山地と丘陵の境にあたり地学的にも特異な位置にあることを学んだ。更なる訪れを希望する方々の多きに、触れた一日でした)と！

今回の、もう一つの特徴は、支部長はじめ多くの支部員の支援があったことも見逃せません。受付、司会、体操、引率解説、医療、指揮、懇親会の各担当、埼玉支部の総力戦でありました。金子医師からは、11 月の日曜日なら ok!の言質をいただいております。

埼玉支部として、越生町の学術的資源、即ち地学的、植物学的、歴史学的見地に立ち、その豊富な資源を身近な(越生駅至近)場所で観察できる、恵まれた地域と捉え、継続観察会としていきましょう。越生町の郷土史家、金子和弘、典子ご夫妻は有難き助言者であります。教育委員会の近江 哲氏、本部より川口章子自然保護委員長、高尾の森、千葉支部、元川山研管理人らの参加は、うれしいかぎりでした。

(文責:高嶋徳紘)

四季の山行 秋山 浅草岳

加藤 満

多い年にはひと冬に15メートル近くの雪が降る六日町盆地。豪雪地帯特有の1階部分が車庫等、2・3階が居住空間となっている家が多く見受けられる静かな道を16名の集団がぞろぞろと進みます。

10月31日 明日の浅草岳登山の前哨戦・足慣らしでもある「坂戸山」への登山口に向かっています。この地方の昨日までの天気予報では雨の可能性もありましたが、今のところ雨には当たらずに済みそうです。

地元の方に登山口の確認をすると丁寧に教えて頂き、土地の住民の方の純朴さが伝わってきます。



坂戸山はその昔(1520年ごろ)坂戸城のあった場所として南魚沼市民とりわけ六日町地域の人たちのシンボリック存在のようです。標高は634メートル。奇しくもスカイツリーと同じ高さであり、春にはカタクリの群落が登山者の眼を楽しませているとのこと。登山道はよく整備されているが麓からの標高差は500メートル弱あり結構急登である。ようやくエンジンがかかり体も暖かくなっ

てきた約1時間で頂上に到着。

頂上からは八海山や巻機山が展望できるが、八海山方面を展望すると上部は白くなっており、どうやらそれなりの積雪があるようなので、明日登る予定の浅草岳も標高から考えると積雪を覚悟しなければならない。明日の天候回復を願いながらの下山である。

今日の宿泊場所は「国民宿舎・浅草山荘」。少し早い到着になるが明日に備え十分鋭気を養える。

《11月1日》

昨夜は美味しいお酒と夕飯をいただき、又、いつものように話にも花が咲き泊り山行の楽しさを堪能した。

朝7時朝食。この地方は全国一美味しいお米が採れる地域であるので、多分「魚沼産コシヒカリ」の銀シャリごはん(?)かな、と思いながらも減量を継続するために控えめにいただき早々に浅草岳登山口へ出発である。

登山口であるネズモチ平へはバスで向かうが、途中の紅葉も楽しみだ。今日の空模様は曇り空ではあるが、まだ雨は降ってくる様子はない。登山口までの道はかなり狭い所が有りバスでの走行は厳しそうであるが、運転手さんは慣れていそうなので不安はない。しかし、運転手さん曰く、時間帯によっては登り下りの車の交差が難しいとのこと。

ネズモチ平の駐車場は広々としていて100台位は駐車出来そうである。

身支度を整え、いよいよ出発。人数が多い為?か AB 2班の編成にしてあり、1班8名となる。余計なことであるが全体の平均年齢をみると68歳弱である(ダントツの方を除いてだが)。

しかし、自分のことをさて置き、つくづく近頃の高齢者は元気になったと思うこのごろではある。ともあれ、「健康寿命」が延びることは大変喜ばしいことである。

ちなみに、浅草岳は田中澄江さんが『新・花の百名山』でヒメサユリを紹介しているが、彼女がこの山に登ったのは喜寿の歳と思われます。「花の百名山」を世に出して以降年間に20~50という大変な数の山に登っていたそうですが、その理由として「休むとなまるということで、年齢を加えるほどたくさん登るようになった。」と告白しています。私も見習いたいものです。

さて、準備を整え高橋リーダーを先頭に A 班から歩きます。紅葉の季節でもあるのでもう少し登山者がいると思っていたがそれほど見当たらない。昨日の降雪もあり見合わせた登山者もいるのであろうか。

さて8時半。当面、登山口から前岳を経て浅草岳(1586m)までの約3時間半頑張ろう。曇り空ではあるが、幸い雨が降りそうな兆候はないようなので有り難いことだ。

約1時間半位歩くと雪に覆われた前岳・浅草岳が展望できるが足元にはまだ積雪はないが、さらに30分位歩くと完全な雪山で15cm程度の積雪である。

ようやく前岳、浅草頂上までは10分程度だ。山頂には昼12時の到着であるが、昨夜の夕食をしっかり食べてお酒もそれなりに飲んだせいかなり空腹感はない。頂上から見渡すと、はるか下に田子倉湖が美しく輝いて



見える。 浅草岳山頂

前岳の分岐で昼食タイム。早々に鬼ヶ面山に向かうが、やはり降雪のあとは山道が緩んで滑りやすく足元が不安定になっているので、急坂や左側が切れ落ちている所などは注意。緊張する。また、左側には結構な崖壁が眼を楽しませてくれる。鬼ヶ面山では予定時間を経過している事もあり、早々に登頂を後に貸切バスの待つ六十里越登山口に急ぐ。

もう日も暮れかかっているが、山の上で日没を見るのも久しぶりかな。

登山口まで下山すると既に暗くなっている。しかし特別疲れもない。この頃は山歩きの頻度が少なくなっているが、「なまる」ことがないように頑張ることにしよう。

平成 27 年度 支部長会議報告

平成 27 年度支部長会議が、平成 27 年 12 月 5 日(土)、10 時 30 分～12 時 30 分、京王プラザホテル 42 階「高尾」で開催された。以下に概要を報告する。

1) 会務報告として、

①平成27年度永年会員は計36名で、埼玉支部からは本庄市在住の山田圭二(会員番号 5,992)氏が新永年会員となられた。

②「支部に関する規程」の一部を改正し、会員から支部所属届及び所属支部変更届が支部に提出されたら、支部長は総務担当理事に所属支部異動届を報告する。

2) 会員一人あたりの平成 28 年度支部助成金「支部運営交付金:1,000 円、支部事業補助:1,300 円、総額 2,300 円」の変更。新入会員報奨金は 4,000 円に変更なし。

3) 会員制度・会員サービスに関する検討案について(今後さらに検討されます。)

①定款改訂により、永年会員の年会費を 6,000 円(実費相当)とする。

②夫婦会員制(配偶者会費減額)を家族会員(子供等会費減額)制に改訂する。

③準会員制度案の概要

- ・資格期限は 3 年とし、正会員に移行するか、原則除籍となる。

- ・入会金は 5,000 円、26 歳未満は入会金免除とする。

- ・準会員会費は 6,000 円とする。

- ・資格審査は紹介者会員 1 名でよい。

- ・会員総会での議決権はない。役員や各種委員会の委員にはなれない。

- ・特典などとして、JAC 開催の講習会・山行、晩餐会を含む各種行事に参加できる。団体登山保険に加入、山研などの JAC 施設を利用できる。会員証を発行する。

- ・支部に、準会員一人当たり正会員と同額の支部助成金を支給する。

- ・新準会員奨励金は一人当たり 2,000 円とする。

- ・支部の会友・支部友などの支部独自の制度は、支部の任意とする。

以上、準会員制度の新設は、正会員の増加に向けた本部の取り組みの一環として提案された制度である。各支部でも準会員への対応を検討しておく必要がある。

(2015. 12. 6 松本敏夫記)

日本山岳会創立 110 周年記念式典・祝賀晩餐会 参加報告

松本敏夫

平成 27 年 12 月 5 日、京王プラザホテルコンコードボールルームで日本山岳会創立 110 周年記念式典及び祝賀晩餐会が開催された。記念式典は皇太子殿下臨席のもと、日本山岳会小林政志会長の挨拶、全国「山の日」協議会の谷垣禎一会長及び日本山岳協会の八木原罔明会長の来賓祝辞があった。また、埼玉支部会員の山田硅二氏(会員番号 5992)が新永年会員となられた。埼玉支部からは 21 名の参加であり、他支部の会員との親睦を深めた。



晩餐会会場にて②



晩餐会会場にて③



晩餐会会場にて①



晩餐会会場にて④

埼玉支部忘年山行（清掃登山）

竹内タミ子

12 月 12 日（土）日本山岳会、埼玉支部に入会して二ヶ月余り、忘年山行（清掃登山）に一泊二日で、初めての参加でした。参加者は 19 名で貸切バスを利用。

一日目は観音山 698m、観音院（三十一番札所）でゴミ袋とゴミバサミを渡されましたが、頂上に着くまでゴミはあまり落ちていませんでした。予報よりもお天気が良く、頂上では武甲山、二子山、両神山を眺めながら昼食をとれて、気持ちの良い登山でした。



二時頃下山して、宿泊予定の三峰神社興雲閣に向かい、三時半頃から一時間程神職さんの講話があり、三峰神社にまつわるオオカミ（山犬）信仰、江戸中期頃から県内は最多、岩手県から岡山県まで十一県ほど山犬を祀る神社があるそうです。

犬は外敵を知らせ、火災等の災害にもいち早く嗅ぎつけ主人に知らせる賢さから守り神にしたと思われます。

又、三峰神社一帯で木材、田畑を作り生活は全部賄っていたとか、現在の神社は五百年前に再建され、昭和三十九年から平成十三年まで、ロープウェイがありその頃私も参拝した覚えがあります。今は、若者からパワースポットなどと言われ駐車場も広く、土日は参拝者も多くなってきたようです。

その後温泉で温まり懇親会では、松本支部長の挨拶から始まり、初参加の私が一言「よろしくお願い

します」と挨拶をして、それからは、ジャンケンゲームで盛り上がり、武甲の湯のチケットをゲットし、二次会もそれなりに楽しく、仲間に入れてもらえた様な気がします。

二日目の朝は七時よりご祈祷があり、安全登山祈願等をして、お箸をいただいて参りました。

九時半から、奥社妙法ヶ岳 1,329mへ出発しましたが、小雨模様の中、風で飛ばされたのか、しめ縄につけた紙が落ちていたので拾い、その他ジュースの空缶、一升瓶まで拾いごたえありました。

奥社には年代物のオオカミ（山犬）が沢山祀っており、秩父宮登頂の碑も建立されておりました。下山後は武甲の湯で汗を流し、予定通り夕方五時ごろには帰路につき今回初めてでしたが、とても意味のある山行でした。



妙法ヶ岳（1,329m）山頂



新年山行と支部懇談会報告

〔埼玉 100 山 加治丘陵〕

小原 茂延

近年にない暖かな正月 16 日、新年山行は「埼玉 100 山」の加治丘陵ハイクであった。西武池袋線の仏子駅に集合(10:15)した参加者は 25 名、新年挨拶を交わす声もそこそこで聞こえる。穏やかな陽気も手伝って和気藹々のムードである。

宮川リーダーからルートの説明と懇談会への流れについて話の後、A,B 班に分かれて順次スタートした。今回は武蔵野音楽大側の南コースから唐沢トラスト地を経由して、北コースを戻る行程で、南北コースは旧サイクリングコースの舗道となっており、周辺住民のよき散策路であり、ウォーキングを愉しむ方達ともよく行き交う。

舗装路から山道に入るとヒノキの植林が続く、雑木が混じって程なく「桜山展望台」に午前 11 時過ぎに到着した。サクラの木が多く花見の時期は大勢の人で賑わうそ



うである。リーダーより展望台に上がるもよし、中食をとるのも結構、食事場所は他にも 2 か所予定しているとの呼び掛けで、それぞれ好みの休憩になった。

展望台からは 360 度の眺望が得られ、傍らの会員と山座同定を愉しむ。気温 11 度近い暖かさと午前 11 時過ぎという時間から富士は霞の中であったが、大岳山、御前山、雲取山、武甲山をはじめとする多摩、秩父の連山を望め、皆な満足げな表情であった。

次に目指したのは唐沢トラスト 6 号地で、途中にある八幡神社は上谷ヶ貫の獅子舞奉納で知られ、金子神社は武蔵七党の流れ金子氏ゆかり(松本支部長の話)など由

緒ある社を詣でて新年の願いを念じている会員諸兄弟が多く、低頭している姿は神妙である。イノシシ出没注意などユニークな小看板もあり、ヌタ場と思われる場所も何ヶ所か見られた。落葉樹や竹林などの植生域に入っていく。唐沢の水源から流出する細い流れ沿いを下り小平地で休憩をとる。市民の寄付等により緑のトラスト運動が保全された旨の表示板がある。サブリーダーの東さんが指さす先は幹線道路で、車が走っているのがわかる。貴重な自然が残された意義は大きい。落ち葉の厚く積もった散策路にはミズキ、ハウノキ、ゴンズイ、ウワミズザクラ等が見られ、その他の樹名板もかなり取り付けられていた。

帰路は金子神社まで戻って北コースに向かう。

「阿須山探検の森公園」の標柱を入ると、そこに二等三角点(188.6m)があつて、支部の同好会である「陸地測量部」の鴨志田氏が早速写真撮影にあたる。(本年より埼玉県内の三角点を写真で記録するとの同部が活動方針としている由)

北コースも旧サイクリングコースの遊歩道で、参加者同士が会話を愉しんでいる。情報を交換をしたり、知識を増やす上でも好機のようにであった。

仏子駅から懇談会場である所沢に電車で移動する。会場の「ひょうたん別館」は竹の並木のアプローチがある和風の落ち着いた店、二階の大きな部屋を取っていて、宴の前に新年の方針や行事等を報告する場所としてはうってつけであった。

懇談会は午後 5 時から開催、進行役の古川事務局長の軽妙な司会で始まった。

松本支部長は挨拶で、本年から「山の日」が国民の祝日として実施されるので、支部として何かそれに因んだ行事などを考えたい。皆さんからもアイデアを寄せて欲しいとのこと。また、県岳連加入を図り指導員資格取得などへの便宜、その他メリットがある等の話があった。新入会員紹介は鴨志田氏、その後、各委員会、同好会関係者より新年度行事計画の発表があった。また、事務局長から全国支部懇談会は越後支部での開催などの報告と、各地の支部報等パンフなどの提供もされた。

その後、川村女史の乾杯で懇親会に入って飲食を味わいながら出席者の自己紹介となった。各人の出身地

や近況、時には乞われるままに年齢なども披露して、元気な姿と話に感心もさせられた。この朝、初対面の方々が山歩きや休憩の折々に交わした気兼ねない会話の成果で、宵には打ち解けた会員同士となっているのに驚きもし、良き友は大きな財産との念を深くした。懇談の中で、スキー同好会が 4 月 1 日に設立となるそうで、小島女史がその趣旨を話された。その他、支部 7 周年記念山行として「台湾玉山・雪山ツアー」計画のお知らせ、2 月に開催されるアルパインスケッチクラブ展覧会の案内等もそれぞれの関係者からなされ、参加者一同、笑顔で本年のスタートとなった。

第 12 回安全登山講演会「滑落・転倒・道迷いを起こさないために！」報告

安全登山委員会主催による第 12 回安全登山講演会「滑落・転倒・道迷いを起こさないために！」が平成 28 年 1 月 23 日(土)、13:30~17:00、埼玉県勤労者福祉センター(ときわ会館)5 階 501 会議室で開催された。講演会には日本山岳会員及び支部会友(27 名)及び県内外の山岳会・一般登山者(18 名)を含め総計 45 名の登山愛好者が参加した。講師は埼玉県警察山岳救助隊の飯田雅彦副隊長である。



埼玉県警山岳救助隊・飯田雅彦副隊長

飯田副隊長は平成 23 年 1 月に初めて講演を依頼して以降、6 年連続の安全登山講話となった。

初めに、埼玉県の山岳救助隊体制は、埼玉県警察(秩父署:21 人、小鹿野署:7 人、本部:2 人)、飯能消防

署山岳救助隊(H26. 7. 9 発隊)、埼玉県警察航空隊:ヘリ 3 機、消防防災航空隊:ヘリ 3 機で対応する事が説明された。次に、全国の山岳遭難発生概要が報告され、平成 26 年の全国遭難件数 2,293 件、遭難者数 2,794 人で前年比は上昇した。遭難原因の 1 位は道迷い、2 位は滑落、3 位が転倒と続き、この傾向は毎年同じである。埼玉県内の平成 27 年中の遭難件数は 62 件、遭難者数は 89 人で、死者は 7 人であった。遭難原因の 1 位は道迷い(31 件)で、次が滑落(14 件)、3 位が転倒(13 件)で、死亡例 7 件(三峰山 2 件、日和田山、入川、中津川、白岩山、小鹿野二子山)の原因や捜索の詳細が具体的に報告され、主原因は滑落であった。特異な遭難事例として、野生動物(日本オオカミなど)調査の為の入山、突発的な認知症発症による道迷い、登山歴のない札所巡礼者の道迷い、登山経験の無いアニメファンの聖地巡礼など世相を反映した遭難も報告された。これらの講演は、一般登山者にも有用な事例報告も多く、安全登山に対する注意喚起に重要な役割を果たすものと考えられる。また、講師から出されたクイズに正解すると埼玉県警のカレンダーがプレゼントされるなど、聴衆の関心を引き付ける巧みさが抜群である。



講演会風景

講演会終了時のアンケート調査では、「講演内容は全体的に分かり易く、自分の足りなかった知識を補うことができた。また、具体例を沢山紹介頂き、大変参考になった。新しい知識を得ることができとても勉強になった。安全講演会を継続して開催して欲しい。」等の意見が大部分を占め、有意義な講演会であった。

(安全登山委員会 松本敏夫 記)

第 5 回シンポジウム「埼玉の自然を知ろう」報告

埼玉支部自然保護委員 高嶋委員長

第 5 回は 1 月 21 日 (木) 浦和コミュニティセンター 10 階第 13 集会室で関係者含め 21 名を集め開催された。急遽代行で受付を引き受けていただいた宮川女史には感謝したい、定刻 6.00 時、龍久仁人委員の司会で自然保護委員会の県内外における主な活動を映像等で紹介した。そのため配布資料は多岐にわたった (カラー 2 枚含め 18 枚)

- ① 「大高取山自然観察会」は映像 (動画) が 20 分で参加者らの活動をとらえていた。

報告の方法も年々先端機材が使われるようになり、伝えるインパクトは、それなりの効果があった。先回は、植物、鉱物、寺社で観察対称を人物中心にした点で違っていた。

- ② 「シカ食害調査」は 4 年間に渡り県内並びに隣接する奥多摩～山梨県に及んだ。奥秩父では林床植物並びに樹木 (皮剥ぎ) の被害がひどく奥多摩、山梨に大移動しているようであった、奥多摩ではネット張りなどで予防しているも、繁殖が激しく、深刻な社会問題に発展することが危惧される。なんだかの措置が急がれるとの警鐘を発していた。

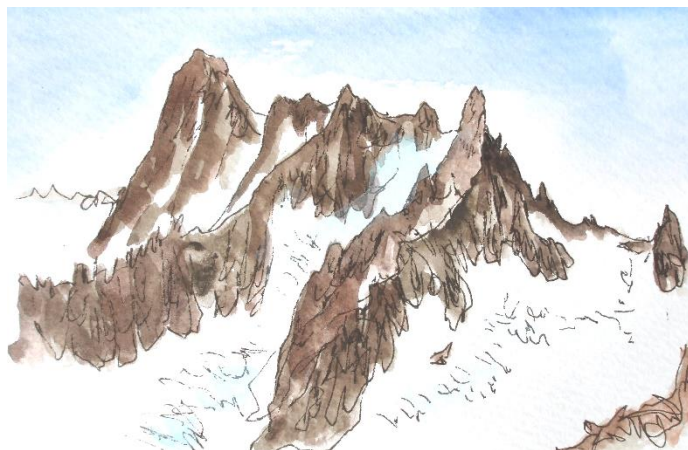
- ③ 「森づくり & 自然観察会」は埼玉県森林サポータークラブとの共同作業で年 2 回実施した、秋には小学生が植林した 2 年物のコナラ幼樹の周りの下草刈を実施した。

- ④ 午後は狭山丘陵の緑の森博物館周辺で、紅、黄葉を観察し、紅アズマ堀りに遭遇した。

見えてくる事実は社会が下すものと

とらえており、一人立ちできる現地調査や解説員の養成を最重要に活動しております。

●自然保護委員会では、高密度の現地調査を実施し、見えてくる事実は社会が下すものととらえており、一人立ちできる現地調査や解説員の養成が最重要にと活動しております。



埼玉支部の会員の異動

会員：平成 28 年 2 月 10 日 現在 142 名

会友：平成 28 年 2 月 10 日 現在 10 名

入会：竹内タミ子 (15,828)

入会：無し

根津隆二 (15,584)

退会：下野武司 (11,202)

退会：無し

月	今後の事業予定 (注) 最終的な日時・場所・内容の変更などは HP、メールをご参照ください	登山担当 C L
3	・ 5 日 埼玉 100 山 天覚山・大高山	
4	・ 9 日 (土) ~ 10 日 (日) J A C 全国支部懇談会 越後支部 ・ 16 日 (土) 埼玉支部通常総会 大宮ソニック ・ 17 日 (日) 総会記念山行 釜ノ沢五峰 ・ 24 日 (日) 障がい者ふれあい登山 大高取山 ・ 29 日 (土) ~ 30 日 森づくり研修会 高尾グリーンセンター	高橋
5	・ 21 日 (土) 那須岳 ・ 22 日 (日) 第 1 回森づくり & 自然観察会 狭山緑の森博物館周辺 ・ 28 日 (土) ~ 29 日 (日) 未定 三支部合同登山 東京多摩支部担当	高橋 古川
6	・ 4 日 (土) 第 11 回安全登山講習会 「ハイキングレスキュー講習」 飯能 ・ 5 日 (日) ~ 6 日 (月) 四季の山 春の山 守門岳 ・ 26 日 (日) 植物・野鳥・昆虫研修会 埼玉県自然学習センター 岩登り講習会 平川ガイド 未定	松本 高橋 高橋
7	・ 3 日 (日) 皇海山 沼田ルート ・ 29 日 (金) ~ 31 日 (日) 四季の山・夏山 戸隠山・高妻山・飯縄山	山崎 高橋
8	・ 11 日 (祝) 「山の日」記念イベント 埼玉岳連と連携協議中	松本
10	・ 5 日 (水) ~ 11 日 (火) 7 日間 日本山岳会埼玉支部創立 7 周年記念海外登山 台湾・雪山と玉山を登る	古川

事務局からのお願い

住所はもちろんです、

特にメールアドレスを変更された場合、事務局へのご連絡をお忘れなく！

事務局長 古川史典

f8008pk@rock.odn.ne.jp

公益社団法人日本山岳会 埼玉支部報 第 17 号

平成 28 年 (2016 年) 2 月 29 日発行

公益社団法人日本山岳会埼玉支部

発行者：松本敏夫

事務局：〒350-0312

比企郡鳩山町鳩ヶ丘 1-25-10 古川史典方

e-mail：f8008pk@rock.odn.ne.jp

携帯電話：090-3219-0860

<http://jac.or.jp/info/shibudayori/saitama/index.html>

編集・印刷 富樫信樹

埼玉支部の会員の異動

会員：平成 28 年 2 月 10 日 現在 142 名

会友：平成 28 年 2 月 10 日 現在 10 名

入会：竹内タミ子 (15,828)

入会：無し

根津隆二 (15,584)

退会：下野武司 (11,202)

退会：無し

月	今後の事業予定 (注) 最終的な日時・場所・内容の変更などは HP、メールをご参照ください	登山担当 C L
3	・ 5 日 埼玉 100 山 天覚	
4	・ 9 日 (土) ~10 日 (日) J A C 全国支部懇談会 新潟支部 ・ 16 日 (土) 埼玉支部通常総会 大宮ソニック ・ 17 日 (日) 総会記念山行 釜ノ沢五峰 ・ 24 日 (日) 障がい者ふれあい登山 大高取山 ・ 29 日 (土) ~30 日 森づくり研修会 高尾グリーンセンター	高橋
5	・ 21 日 (土) 那須岳 ・ 22 日 (日) 第 1 回森づくり&自然観察会 狭山緑の森博物館周辺 ・ 28 日 (土) ~29 日 (日) 三支部合同登山 多摩支部担当	高橋 古川
6	・ 4 日 (土) 第 11 回安全登山講習会 「ハイキンレス講習」 飯能 ・ 5 日 (日) ~6 日 (月) 四季の山 春の山 守門岳 ・ 26 日 (日) 植物・野鳥・昆虫研修会 埼玉県自然学習センター	松本 高橋
7	・ 3 日 (日) 皇海山 沼田ルート ・ 29 日 (金) ~」 31 日 (日) 四季の山・夏山 戸隠山・高妻山・飯縄山	山崎 高橋
8	・ 11 日 (祝) 「山の日」 記念イベント 埼玉岳連と連携協議中	松本
10	・ 5 日 (水) ~11 日 (火) 7 日間 日本山岳会埼玉支部創立 7 周年記念海外登山 台湾・雪山と玉山を登る	古川

事務局からのお願い
住所はもちろんです、
特にメールアドレスを変更された場合、
事務局へのご連絡をお忘れなく！

事務局長 古川史典
f8008pk@rock.odn.ne.jp

公益社団法人日本山岳会 埼玉支部報 第 17 号
平成 28 年 (2016 年) 2 月 29 日発行
公益社団法人日本山岳会埼玉支部
発行者：松本敏夫

事務局：〒350-0312

比企郡鳩山町鳩ヶ丘 1-25-10 古川方

e-mail：f8008pk@rock.odn.ne.jp

HP：

<http://jac.or.jp/info/shibudayori/saitama/index.html>

編集・印刷 富樫信樹

